

(様式6-2)

研修派遣 精算書

令和7年8月21日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、研修派遣(参加)に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会派名	市民とともに	代表者	
		議員名	山崎 丈 /
参加者氏名	山崎 丈		
研修先	リファレンス西新宿大京ビル2階		
講演会等 研修名	自治体病院関連質問で地域の医療を守る特別研修		
研修事項	・自治体病院と地方財政の基礎 / ・参加自治体病院の現状把握 / ・必ず成果が出る質問の取り上げ方 / ・病院改革から病院経営強化へ /		
日時	令和7年7月22日(火)10時~7月23日(水)16時00分 /		
支払金内訳	科目	支出額	摘要
	参加負担金	60,000	/
	宿泊料	27,000	13500円×2泊=27000円 /
	日当	9,000	3,000円×3日間 /
	鉄道賃 (モルール)	30,540	往路 15,470円 / 復路 15,070円 / (JR 三田~新宿間)
	航空賃		
	バス賃		
	船賃		
	タクシー		
	その他	660	振込手数料 /
合計	127,200	//	
備考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入
会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式6-3)

研修等 報告書

令和7年8月21日

三田市議会議長 福田 秀章 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	山崎 丈 /
参加者氏名	山崎 丈 /		
講演会等研修名	自治体病院関連質問で地域の医療を守る特別研修		
研修事項	・自治体病院と地方財政の基礎 ・参加自治体病院の現状把握 ・必ず成果が出る質問の取り上げ方 ・病院改革から病院経営強化へ		
日 時	令和7年7月22日(火)10時～7月23日(水)16時00分 /		
場 所	リファレンス西新宿大京ビル2階 東京都新宿区西新宿7丁目21-3		
所 見 (別紙でも可)	別紙の通り		
添付資料	・自治体病院と地方財政の基礎 (1日目①) ・参加自治体病院の現状把握 (1日目②) ・必ず成果が出る質問の取り上げ方 (2日目①) ・病院改革から病院経営強化へ (2日目②)		

添付書類(講演会内容のパンフレット等)

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

7月22日(火)

・自治体病院と地方財政の基礎 (1日目①)

公立病院の立地 … 中小規模自治体(人口3~10万人)に立地

新型コロナウイルス感染症対応における公立病院の役割 … 大阪府の混乱

病院医療の崩壊カウントダウン(日本病院会 HP)

診療報酬が抑制されている中でも、病院は医療を行わなければならない

コロナ補助金がなくなり、人手不足や人件費増もあり、収益は悪化している

総務省「公立病院経営強化ガイドライン」

限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用する

新興感染症の感染拡大時に対応 機能分化・連携強化を進める

中核的医療を行う基幹病院に急性期機能を集約する

医師・看護師などの派遣連携を強化する

新型コロナウイルスを踏まえたこれからの病院のあり方

病院の個室化 例:加賀市医療センター(300床)はオール個室、個室料を取らない

新型コロナウイルス、インフルエンザなどの感染症に対応可能

男女関係なく入院可能

認知症の患者の対応もしやすい

家族の付き添いが可能

建物が古いと感染症の対応が十分できない

統合再編による規模拡大が必要

自治体・公的病院を統合・再編して機能向上を図ることが必要

統合・再編や病院移転に必要なこと

データを基に議論を行う

反対の起きやすい住民・患者への情報提供を行う

医療現場(特に院長)の意見をよく聞く

自治体病院の地方交付税制度

一般会計からの繰入金に対して地方交付税措置が認められている

総務省は一般会計繰入金を入れた後の経常収支での黒字を重視している

必要なら地方自治体からの一般会計の繰入金を入れることは必要との立場

普通交付税

1床あたり72万円(令和5年度)

病院事業債(企業債)の25%が措置される(統合再編は40%)

特別交付税

周産期、小児医療病床、感染症病床、小児救急医療提供病院、救命救急センターなどに特別交付税が措置される。

総務省の推奨する新しい建設発注方式

ECI(早期に施工者が設計に関与)方式

設計施工一括方式

時代遅れの指定管理者制度導入

本格的少子高齢化社会の到来で看護師不足は厳しい状況になっている

職員全員解雇を前提とした指定管理制度は看護師の大量退職を招く恐れがある

三田市が目指している「病院の個室化」は正しいことがよく分かった。また、データを基に議論を行うことが大切だと分かった。建設、運営に当たっては、国の地方区府税などをうまく使うことが大切だと分かった。三田市が取り入れている「指定管理者制度」について、職員大量解雇が看護師不足を招く可能性があるため、慎重に取り組むことが大切だと分かった。

・参加自治体病院の現状把握(1日目②)

地方公営企業年鑑(総務省発表)

全国の自治体病院と比較可能

過去のデータとの比較可能

病床利用率、一日ひとり平均入院単価、病院給与、経営指標も公開されている

財政分析の基本

賃借対象表:資金がどのように調達され、運用されているかを表している

一定の時点での資産や負債の状況を表している

損益計算書:1年間にどれだけの収益を上げ、その利益を得るためにお金をどれだけ使ったかを表したもの

最も重要な現金・預金

手持ち現金がなければ安定的な経営はできない

手持ち現金が枯渇すると一時借入金に頼る経営に追い込まれる

三田市:11.8億円の現金

企業債(長期):8.17億円

建設改良費等の財源に充てる

企業債(短期):9.7億円

その他長期借入金:1670万円

経営に関する指標

病床利用率85%は欲しい

急性期病院は平均在院日数が短い

診療報酬制度では、平均在院日数が長いと収益が減少する

1日平均入院・外来患者数は、経営の重要指標

外来患者数は、医師の負担軽減のため、大規模病院は患者数を減少させる傾向

人間ドッグは経営に貢献する(10人で1億円、50人で5億円)

三田市:病床利用率66.5% → もっと上げないといけない!

職員に関する指標

愛知県内市町村立病院常勤医師数推移…建て替えた後の医師数は大幅増

時間外勤務手当…名ばかり管理職として支給していない自治体病院が多い

三田市民病院 時間外4万1800円…若い人に出していない可能性あり

都道府県別医師数の比較

2018年から2022年の人口10万人あたりの医師数の増加数

兵庫県は全国で3番目24.3人(全国平均15.3人) 総合の結果→◎

女性医師数

女性医師の勤務する病院を目指す必要がある

初期研修マッチング

地方の国立大学病院は不人気

都市部の大学病院、市中病院に初期研修医が集まる傾向が強い

新しい建物の病院に医師は勤務したい傾向が高まっている

医療法の改正

2021年5月21日「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律案」が成立

医師を拠点病院に集め、医療機能を集約する必要がある

参加者の自治体の病院に関連して話をいただいたおかげで、三田の置かれる状況がよく分かった。三田市民病院の医師の確保は、神戸大学とのつながりで大丈夫そうだ、ということが分かった。財政については、年々厳しい状況になっているので、大切な項目を中心に確認していきたい。

・病院改革から病院経営強化へ(2日目②)

「改革」から「経営強化」に

「改革」とは、新自由主義的な考えの強い時代に象徴される、効率化やリストラの発想
自治体病院の目的

良い医療を、相対的に安価で効率的な医療を行うこと

財務の改善自体が目的ではない。良好な財務と良好な医療を両立させる

病院(企業)と自治体本体の違い

自治体本体 差引残高 = 歳入 - 歳出

歳入を増やすのは難しい。支出削減が通常。

病院 利益 = 売上 - 支出

支出を減らすのは難しい。売上増やすのは可能。

自治体病院の収入を増やす

医師・看護師・医療技術者の雇用増

医療を高度化して単価を上げる

病棟構成を見直す

入院患者を増やす

診療報酬加算を取得する

入院期間の短縮

外来患者増(医師の負担増)

退院促進の必要性

病院・病棟の平均在院日数が長すぎると診療報酬は下がる

病床を埋めつつ平均在院日数の基準内で適当な入院日数を模索する

健康診断事業(人間ドッグ)の拡充

健康診断事業は採算性がよい

1日10人受診で年間1億円、50人で5億円程度の収益が見込まれる

看護師・介護士などの深刻な人材不足

18歳人口… 1992年205万人 → 2041年72万人

都市部もへき地も全て看護師不足になる

看護師の仕事は、人工知能で仕事を置き換えられない

指定管理者を導入して看護師を解雇すれば、病院から大量の離職者が発生する

看護師不足に対する対策

職員住宅の確保

労働環境の改善

専門資格(専門看護師、認定看護師、認定看護管理者など)の取りやすい環境

例:あさひ総合病院

自治体本体の会計と違う病院の会計では、収入をあげることの必要性が分かりました。三田市民病院では、人間ドッグの受診率を上げると収入アップになる、看護師不足に真剣に取り組む必要がある、と講師の伊関先生から指摘を受けました。

病院に関する知識を活かし、質の高い一般質問をすることで、地域医療を守ることができることが分かった。

また、今回の研修中に示された事例の中で、病院統合再編の流れがよく似ている「加賀市医療センター(石川県)」や看護師確保の先進事例の「あさひ総合病院(富山県)」については、できるだけ早い時期に視察などして、新しい三田市民病院に活かしていきたい。

